

遊休農地対策として植栽されたクリ新品种「ぼろたん」の栽培支援 東伯農業改良普及所

1. 取組の背景

琴浦町は農業どころで様々な農産物を生産しているが、農業者の高齢化や担い手の減少、社会情勢の変化により耕作放棄地が増加している（平成25年2月現在、53.6haの遊休地がある）。

そこで、琴浦町は農業委員会を中心として耕作放棄地を有効活用した新たな特産品づくりによる町の活性化を目指し、「大粒、おいしい、皮がむきやすい」という特徴を持ったクリの新品种「ぼろたん」に注目した。平成23、24年度は耕作放棄地事業等を活用して「ぼろたん」と交配用の「美玖里」の新植を進めた。平成23年には「琴浦ぼろたん研究会」（農業員会が事務局）を立ち上げ、JA、普及所等関係機関とも連携しながら栽培支援と販路拡大を目指している。

2. 活動内容

- (1) 平成23年11月～：新規栽培者を対象とした栽培指導情報の作成、栽培指導会の開催を普及所、JAとともに実施している。



写真1 栽培指導会の様子

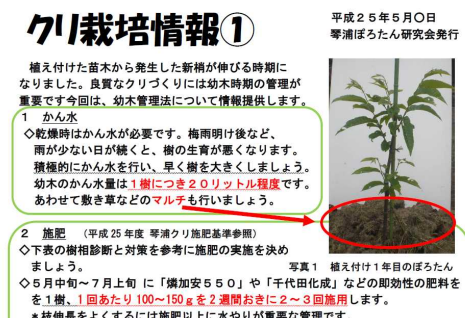


写真2 栽培指導情報

- (2) 平成23年12月～：琴浦町農業委員会を事務局として「琴浦ぼろたん研究会」を設立した。生産者、普及所、JAで役割分担を協議し（*当初会員29名）、普及所は主に栽培指導に係わる情報収集や栽培指導、病虫害対策について対応を行っている。



写真3 イガへの虫害の様子



写真4 フェロモントラップ調査の様子

- (3) 平成 24 年 11 月 7 日：「ぼろたん」の知名度向上を目的に、町内菓子メーカー等へ協力を呼びかけ、試食会の開催支援を行った(会場は琴浦町役場 約 80 名参加)。
- (4) 町報で新規栽培者の募集を行った結果、平成 24 年度中に 39 名が新規参入し、現在 68 名が栽培、5 年後には約 5 トンの生産量を目標として活動中。
- (5) 平成 25 年 5 月～：先進農家に普及所が実証ほを設置し、園芸試験場とも連携しながら、防除対策や栽培に関する基礎資料づくりを行っている。
- (6) 平成 25 年度は試食会を「ぼろたん祭り」に名称を変え、消費者、町民などへの知名度アップへの取り組みを支援した。地元のショッピングセンターを会場とし、宣伝効果の向上と地元への波及を目指した。また、JAが主催する「農協祭り」でも試食と試験販売などの取り組みも行った。



写真 5 広報チラシ 写真 6 ぼろたん祭りの様子 (平成 25 年 11 月 17 日)

3. 具体的な成果

- (1) 平成 25 年度現在、クリ新品種「ぼろたん」(約 1500 本)と交配用として「美玖里」(約 500 本)の苗木が新植された。
- (2) 植栽された苗木本数(約 2000 本)から面積換算(植え付け間隔 40 本/10a)すると、耕作放棄地が約 5 ha 解消されたと推定される。

4. 農家等からの評価・コメント (琴浦町 F 氏)

梨に比べ栽培は楽であるが害虫被害が予想以上に多いことがわかった。害虫の発生状況や種類を調査していただき、防除対策に役立った。

5. 現状・今後の展開等

会員のほとんどがクリ栽培の未経験者で、基礎的な技術習得が必要である。JAと連携して、現地指導会や先進産地視察を開催するなど、栽培に関する技術支援を引き続き行っていく予定である。平成 26 年度には 20 戸程度のクリ園で収穫が始まる見込みであり、生産部の立ち上げや出荷販売体制を早急に整備する必要がある。

また、市場・消費者・加工業者の「ぼろたん」の認知度も低いので、販路や消費拡大を目指すには引き続き広報活動が必要である。

(執筆者：北川 健一)